

第2日目

サミット会議

11月5日(水)

宝福寺

司会(陶山総務部長)

皆様おはようございます。本日のサミット会議は、雪舟が幼いころ修行を行い、皆様よく御承知の涙でネズミの絵を描いた逸話で知られますここ宝福寺での開催でございます。

昨日は墨彩画シンポジウムをはじめ、第1日目の各行事に御参加いただきまして、誠にありがとうございました。お疲れのこととは存じますが、本日もよろしくお願いいたします。私は、本日の進行役を務めさせていただきます総社市総務部長の陶山でございます。よろしくお願いいたします。

なお、会議の開会前に本日の日程の概略を御説明申し上げます。サミット会議は、各市町の市長・町長さんにより行い、ほかの皆様はオブザーバーの形で進めさせていただきます。会議の終了時刻は10時50分までの予定をいたしておりますので御協力願います。会議終了後、ここ宝福寺の境内におきまして記念撮影を行いましてから、それぞれのお車にお乗りいただき視察に参りたいと思います。市内の各名所をご覧いただきたいところではありますが、時間の都合もございますので、本日は備中国分寺ともし時間がありましたら岡山県立吉備路郷土館へ御案内いたします。吉備文化を御紹介し、またロマン香る吉備路の秋を御満喫いただきたいと思っております。

それでは、ただいまから雪舟サミット構成市町長によります、サミット会議を開催いたします。会議の進行は、慣例によりまして開催地の本行総社市長が執り行います。本行市長よろしくお願いいたします。なお、今日の資料は昨日お配りさせていただきました資料の中の6ページでございますので、メモ等をしていただければと思います。

進行：総社市長 本行節夫

皆さんおはようございます。それでは、会議の進行役を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

昨日は、開会行事と墨彩画シンポジウムにはじまり、また、秋の夜長をもお楽しみいただいたようございまして、ますますお互いの友情が深まったものと存じております。

今日は、2巡目を迎えた雪舟サミットの末永い交流のために、市町長の皆様と次第に沿いまして、近況の報告及び情報交換等、様々なお話をしていきたい、このように思っております。特にテーマは設けておりません。どうぞざっくばらんに御発言いただければと思います。

それでは、各市町の近況報告及び情報交換を行いたいと思います。雪舟に関係がある、ないということに係わらず、それぞれのまちづくり等の状況をお話しいただければと思います。なお、1市町あたり5分程度でお願いいたします。また、御質問等は後ほどまとめ

てお願いをしたいと思います。この順番でございますが五十音順といたしまして、早速ですが大野町の三浦町長さんからお願いしたいと思います。

大野町長 三浦寛喜

それでは大分県の大野町から。昨日はたいへん有意義なひとときを過ごさせていただきまして、本当にありがとうございました。また、レセプションでは心温まるお持てなしなどをいただきまして、本当にありがとうございました。厚くお礼を申し上げます。

それでは資料の8ページにありますように、大野町の近況の御報告を申し上げたいと思います。第1回のサミットで御報告を申し上げました本町の人口であります、当時6,815人と申し上げてまいりましたが、資料にありますように6,145人と毎年80人平均の減少をいたしてまいりました。高齢化率も33.2%と、過疎化・高齢化が進んでまいりました。これは大分県の中山間地域における宿命的な現象といってもよいのではないかと思います。そこで大野町におきましては若者の定住と過疎からの脱却を図るため、定住の促進条例を制定いたしまして、いろいろな事業を推進しているところでございます。具体的には結婚祝い金や出産祝い金、商業、工業、農業の後継者育成奨励金、あるいはまた新規就農者の奨励金や地域づくりグループへの助成、海外研修助成金等、人材育成を盛り込んだ事業に取り組んでいるところでございます。私どもの町はご覧のとおり基幹産業が農業でありまして、1550ヘクタールの耕地というものを活かし、魅力ある儲かる農業をすることが若者の定住と過疎からの脱却につながると考えまして、基幹産業の農業にはとりわけ力をいれているわけでございます。特に平成4年に開港された農道空港を起爆剤にいたしまして、軽くて小さい付加価値の高い産品を一大消費市であります東京の築地市場、太田市場の方に送り活性化を図ろうと、施設園芸の拡大に取り組んでいるところでございます。また、1550ヘクタールという土地は広大な耕地でありますから、葉たばこを中心とした土地利用型の農業と、ハウス等の施設園芸を中心とした集約型農業に大別し、有機質農業の推進や畜産の進行に力を注いでいるところであります。しかしながら、農業の生産所得の不安定な現状の中では、後継者不足あるいはまた就農者の高年齢化が続きまして、農地の荒廃や農業離れの現象が進行しております。これに歯止めをかけるため、大野町農業公社を平成7年に設立し、農家の支援、後継者の育成、優良農地の確保に現在公社が取り組んでいるところでございます。さて、今年の8月14日には、農道空港が農林水産省から運輸省の方に移管されまして、その他飛行場に昇格をいたしました。従いまして、これからはフライト野菜も引き続き送るのでありますが、大野町の農道空港は、名称も大分県中央空港となりまして、大野町から大分の飛行場まで、人も運ぶ、野菜も運ぶ、遊覧飛行もできるようになったわけであります。これまで私どもの町から大分の飛行場まで2時間半か3時間かかっていたわけでありますが、わずか25分で行けるように時間的に非常に短縮されたのであります。遊覧飛行は一分間が420円の単価になっておりいろんなコースがありまして、久住山とか阿蘇山とか、その計算で搭乗できるわけで、今非常に人気上昇中でございます。こうした飛行場を利活用したまちづくりを今計

画しているところでございます。

ところで今、私どもの町では物の豊かさから心の豊かさを求めていく、生きがいとゆとりのある豊かなふるさとを創造しようと、雪舟さんの水墨画、つまり雪舟文化というものを中心とした文化の里づくりをしようということから、一般を対象とした水墨画教室に続きまして、町内の各小学校にも授業に水墨画を取り入れて特別授業の中で行っているところでございます。現在、この水墨画教室がいろんな文化活動に良い刺激を与えまして、陶芸や油絵、竹細工、コーラス、詩吟・短歌・俳句等、各種グループ・サークルの活動が活発になり、町の文化活動が盛んになってきたところでございます。とりわけ、私どもの雪舟サミットのときに第一回のお祭りを開催しており、ちんだの滝雪舟まつりは、ただそれのみならず各協議会の自治体に昔から伝わっております芸能文化の、獅子、白熊、棒術、神楽であるとか、盆踊り等いろんな昔からの文化の保存と継承に努めているところです。また、新しい文化の創造にも取り組んでおりまして、創作太鼓の春日太鼓を結成し、先般の第4回雪舟祭りでデビューしたところでございます。大野町の南の玄関になります沈墮の滝の会の皆さんが一体となって、とにかく賑やかな雪舟祭りを毎年開催しており、非常に心強い感じを抱いているところであります。このように、雪舟さんが基軸となる文化活動が大分県にも認知をされまして、一村一文化の指定を受ける中であって、幸いにして来年は第13回国民文化祭が大分県で開催されるようになっておりますが、その水墨画の展示会場に大野町が指定をいただき、今その準備に取り組んでいるところでございます。来年の国民文化祭にお出での節には、大分の飛行場から25分でこの水墨画展会場に来られますので、どうか御利用いただければ幸いです。今後とも皆様方より、いろいろな面での御指導なり御提言を賜りますようお願い申し上げます、大野町の近況報告を終わります。どうもありがとうございました。(拍手)

進行：総社市長 本行節夫

三浦町長さん、ありがとうございました。

それでは次に、川崎町(かわさきまち)の小田町長さん、よろしく願いいたします。

川崎町長 小田幸男

福岡県の川崎町でございます。昨日は温かい歓迎をいただきまして総社市長さんをはじめ総社市民の方々、関係者の皆様方からお礼を申し上げたいと思います。

御案内のとおり、川崎町は石炭産業を通して戦後の日本経済の復興に大きく貢献した町であります。最盛期の人口これは昭和38年頃になりますが、43,000人に達しておりました。現在は、人口が22,000人、世帯数で8,700戸でございます。町の一般会計の予算規模は140億円と郡内では一番大きな町でございます。昭和13年8月15日に町制が施行され、来年平成10年には記念すべき町制施行60周年を迎えることになっております。現在来年に向けて町制施行60周年実行委員会で記念行事についての検討が行われております。

さて、川崎町のまちづくりについてでございますが、本町では一番に挙げられますのは

福祉のまちづくりではないかと思われます。現在川崎町も例にもれず年々高齢化が進み、現在高齢化率が20.1%となっておりますが、このうち約4分の1は独り暮らしの高齢者ということで、他町村とは少し高齢化の中身が違うところがございます。このような中で、本町では平成5年度の老人保健福祉計画の策定後に川崎町高齢化対策推進協議会を発足させまして、その実施・実現に向けまして力を入れてまいりました。今日までにホームヘルパーなどのマンパワーの確保はもちろんですが、計画の大きな柱となっております念願の365日型の配食サービスが、今年の10月1日からスタートすることができました。この他来年の4月には全国でも珍しい保育所と老人デイサービスセンターの合築型の福祉施設が誕生いたします。平成11年4月には、在宅介護支援センター、デイサービスセンター、ボランティアセンターなどの機能を備えた老人福祉センターと保健センターの併設施設が出来上がる予定です。また今年の5月には川崎町障害者プラン策定協議会を設置いたしまして、平成9年から10年までの2か年をかけて障害者に関して生涯に渡り総合的な福祉を保障するための計画づくりに入りました。このように現在川崎町では高齢者や障害者の福祉施策に力を入れています。2000年4月には介護保健の導入が計画されています。今後ますます福祉のまちづくりに向けて取り組みを進めていきたいと思っておりますし、第2番目には施設の充実でございます。平成2年度から安真木地区観光開発としてのログハウスの山荘や観光リンゴ園などを整備してきましたが、今年の7月1日には四季を通して子供からお年寄りまで楽しめる施設が整ったキャンプ場がオープンし、やっと最終的な「戸谷自然ふれあいの森」構想が完結いたしました。また同じく今年の7月1日には豊前川崎駅前に町民の待ち望んでおりました町立図書館パピルスホールが完成いたしましたし、そのほか平成11年～12年にかけても庁舎改築に向けて、現在庁舎改築委員会を設置し準備を進めているところでございます。今後とも町民の意見を取り入れた無駄のない施設整備の充実に取り組んでいきたいと考えております。

3番目は本当の意味での住民参加のまちづくりと、まちづくりの積極的な取り組みと気運づくりでございます。そこで、川崎町では今年の9月、ふるさと川崎町を愛する町民と行政が手を携へ川崎町の未来に向けたまちづくりを積極的に進めることを目的として、本格的な川崎町夢づくりまちづくり委員会を発足させました。委員さんは全員一般公募で、様々な役職や肩書などを一切取り外してもらい、真にふるさとを愛する一町民として参画してもらい37名の委員で構成をしています。このように町民と行政が本当の意味でパートナーシップを構築することによって、すばらしい住民参加のまちづくりへの道が開けるものではないかと考えております。今川崎町には数多くのまちづくりリーダーが育っております。毎年若者が結集し、農園で1000人規模のライブコンサートを開いたり、農家の主婦達が手作りのお菓子を作り福岡市の天神でPRのイベントを組んだり、多くのグループがまちづくりのワークショップを開催したり、今住民のまちづくりのパワーはとどまるところを知りません。

このように川崎町で生まれきた人的ネットワークは今後川崎町の人づくり・まちづく

りへの大きな牽引力となるでしょう。行政もこれに負けないように智恵を絞り、さらに積極的に邁進していきたいと考えております。

以上、比較的住民に密着した角度から川崎町のまちづくりについて御紹介させていただきました。誠にありがとうございました。(拍手)

進行：総社市長 本行節夫

小田町長さん、ありがとうございました。

次に、益田市の田中市長さん、よろしく願いいたします。

益田市長 田中八洲男

昨日来大変お世話になっております。さっそくお話に入らせていただきます。わたくしどもの資料は12ページでございます。

益田というのはご存じのかたも多いかと思いますが、山陰日本海側に位置しております、島根県では一番西部に寄った地域で、山口県に隣接しております。面積は300㌥で、2つの大きな川、高津川・益田川の三角州に中心部があり、また背後には非常に広い山林地帯が控えております。人口は外国人まで入れますと52,000人くらいで、残念ながら僅かながら減っており、世帯数は18,000強で、僅かずつながら増えているという地域でございます。平均的には高齢化率20%強でございますが、地域によっては36%といったような農山漁村部分と市街地部分とが共存している地域でございます。11月2日の日でしょうか、NHK大河ドラマの後で益田氏の古い居城であります七尾城、あるいは居館でありました三宅御土居等が紹介されましたけれど、その時、益田家のことを海洋領主、韓国あるいは中国と交易をしていた海洋領主的な存在であるというような紹介がございました。私どもは、JR山陰線と山口線の接する地域で、古い時代には海洋民族、海洋交通を行っていたということで、比較的交通の要衝、商業の町だったというような捉え方をしております。

観光名所・旧跡等々でございますが、本日は雪舟さんまつりを御紹介させていただきます。私どもの地域の中には雪舟道路あるいは雪舟橋というような雪舟の名前を冠した地域が多数ございます。その中の一つに、雪舟橋自治会という地域があり、この自治会を含む吉田地域のまちおこしのグループの皆様が雪舟さんまつりという形で地域の住民あるいは子供たちを集めて盛大なお祭りをやっております。昨日、雪舟終焉の地について、いろいろと議論がございましたけれど地元の人々にとりましては、大喜庵と称する雪舟が晩年を過ごして亡くなられたという土地を持っていることで、雪舟さんという言葉に非常に深い親しみをもって、地域名あるいは祭りにこれを取り入れておるといのが現状でございます。特産品についていくつか書いてございますが、メロンについて御紹介してみたいと思います。益田市に飯田というところがございます。この地域で栽培されましたメロンが何年前でたでしょうか天皇陛下からお褒めをいただいたというような実績がございます。非常に広大な地域でハウス栽培でメロンをつくっております。先月、私は大阪の市場に行ってお話を聞かせてもらいました。「メロンに関して言えば大阪の市場では日本一の味で

す。」というお褒めの言葉をいただいて帰ってまいりました。農業に関して言えば、非常に各地域とも厳しい現状で、担い手の育成等懸命に取り組んでおります。益田市の中で最も成功しているのはこのメロン栽培農家で、益田市の平均の1世帯あたりの家族数というのは2.8ないし2.9人ですけれど、こういった成功した農家地域では、4人以上というような平均家族数になっております。私は、常日頃言っておりますけれど、1千万を超える年間所得がある農家が育て上げられるならば、農家はりっぱに後継者を育て、未来の事業として生き残っていくと思っております。その外にバラの栽培、ブドウの栽培等で非常に成功した農家がありますことを申し上げたいと思っております。

次に、主要事業について申し上げたいと思っております。幸いにして益田市には、空港がございます。石見空港という名称で、益田市の中心部から10分ないし15分の距離にございます。今現在は日に東京に2往復、大阪に1往復でございますが、この空港を起爆剤にまちの将来の発展を成就していきたいというのは大野町さんと同じような考え方でございます。そのほか全般的には高速交通体系の整備について申し上げますが、山陰自動車鉢、残念ながら部分部分にしかできておりません。益田市におきましても国道9号線バイパス道路、長期的には自動車専用道路として山陰自動車道の一部となる高速道路の計画があり今都市計画決定の手続きが進行中でございます。これは大変大きな事業になるかと思っております。先ほど益田市の中心部が2つの大きな川の上に乗った広大な平野だということを申し上げたんですが、その平野の中央を横切って様々な道路網が今から整備されていくということで、高速道路と空港、この2つを利用した都市交通整備事業というものに大きな力を入れていきたいと思っております。

それから2点目は、工業団地でございます。今年の4月から43ha強の工業団地の分譲を開始しております。空港に接した臨空ファクトリーパークという名称で力を入れております。もちろん全国的には甲子園の3000倍くらいの工業団地が分譲されていることも承知しておりますが、空港に非常に近接をしているということで、最先端の少し毛色の変った工場を誘致したいということで、努力をしております。近い将来には、面積的には小そうございますが、新しい業種が誘致できるのではないかなと内心確信をもって取り進めているところでございます。山陰地方の田舎の地域でございますので、若者定住という施策が非常に難しく、何とか新たな若者の雇用の創出をしたいということで、空港を利用した企業誘致の促進事業等、懸命な努力を行っております。ちなみに、土地代は本来坪5万円ですが、県が2割補助、市が3割補助ということで、実際には2万5千円程度の土地代、坪単価となっております。もし、みなさまの方で土地がほしい、工場が作りたいたいというお話を聞かれましたら、益田市の方に御連絡していただければ、たとえそれが実現するしないに係わらず、喜んで飛んでまいりますのでひとつよろしく願いいたしたいと思っております。こういったことの外に私どもが今力を入れておりますのが、生活基盤の整備ということでございます。地域によっては今更と言われるようなことではございましょうが、益田市には、公共下水道、場合によっては上水道もないような地域がまだ存在してお

りまして、中心部における公共下水道、周辺部における農業集落排水事業に着手をし始めておるところでございます。

最後になりましたけれど、つい先日雪舟ゆかりの地、中国の寧波市を尋ねてまいりましたので御報告をしておます。寧波市は、非常に広大な面積と500万人くらいの人口を持ち、上海と湾を隔てた向かい側にありまして、非常にりっぱな港を備えた都市でございます。私どもが訪問いたしましたときに、繊維産業が非常に盛んであるということで、陸上競技場の中で、数千人の子供達を集めたマスゲームと、ファッションショーが、大々的に開催されました。寧波市さんはいろいろな意味で日本との関わりを持ちたいということをお願いしておられますので、雪舟ゆかりの地ということでの交流は可能なのではなからうかと思えます。雪舟が修行いたしました天童禅寺等も訪問し、訪問の記事を新聞に掲載していただくなど、手厚い歓迎を受けると同時に日本との交流を非常に強く望んでおられるなということを認識いたしました。過去にも2回実施していますが、来年度に向けて石見空港から寧波空港へ、チャーター便を利用いたしまして訪問団を派遣する事業を考えております。簡単でございますが以上でございます。ありがとうございました。(拍手)

進行：総社市長 本行節夫

それでは 続きまして、山口市の佐内市長さん、よろしくお願いたします。

山口市長 佐内正治

昨日来、大変お世話になっております。山口市長の佐内でございますが、近況報告でございますが、本市におきましては平成元年を基準年とし、平成12年いわゆる西暦2000年を目標といたしまして、第四次山口総合計画に基づきまして、計画的着実に市制を進めておりますが、これをいろいろとお話し申し上げますと、かなり時間も押してきておりますから、簡単に最近の出来事を御報告申し上げたいと思っております。最初に山口市におきますまちづくりイベントの一つを御紹介いたします。このイベントは、先月の4・5日の2日間開催されまして、企画運営まですべて青年会議所とかボランティアの皆様で組織されました実行委員会が実施したものでございまして、地域づくり、また文化・観光振興という観点から大変有意義なイベントであると思っておりますので、御紹介申し上げたいと思えます。このイベントの名称は「アートふる山口」と申しまして、アートは文字どおり芸術という意味でございますが、「ふる」は天から降るという意味と英語のフル・いっぱいという意味がございます。これは大内文化の名残り多いまちの一区域、大殿地区中心でございますが、この区域を一大イベント会場といたしまして、民家や喫茶店などを小さな美術館といたしまして、市民から募った現代絵画や彫刻、工芸、書、写真、古美術、骨董、古い写真などを展示いたしまして、市民が気軽に参加でき、気軽に芸術に親しむという催しでございます。今年で2回目を迎えて、昨年は2日間で3万人、今年は5万人もの人が県内外からおいでをいただきまして、大いに賑わったところでございます。このイベントによりまして市民の皆さんはもとより訪れた多くの皆様が本市特有の歴史文化・芸術などを再発見、再認識されたものと確信しておりまして、山口らしさを全国に向けて

情報発信できたものと喜んでおるところでございます。イベントとしては決して華やかなものではないでございます。また展示された美術品等についても市民の皆様からの提供でございまして、その大半は著明な作家による作品でもなければ、決して高価なものでもないと思いますが、しかしながら多くの方がここを訪れ、賑わったということは、古くから伝承されておる文化歴史あるいは町並みの魅力、つまり山口のもつらしさへの魅力や、学生ボランティアによるハートふるガイドの温かさにひきつけられたものと思っております。また成功の理由は運営をする皆様の情熱と会場となった地区住民の皆様の温かい協力と理解によるものでございまして、市政を預かるものとしたしまして、大変心強く感じておるところでございます。

会場となりました大殿地区は、昨日の報告の中でも申しましたとおり今から600年前の大内氏の時代に大内氏館がございまして、当時の中心として賑わったところでございます。特に、地域を流れる一の坂川は大内氏の時代は京都の鴨川に似せて整備されたといわれ、町の中心部を貫流しておりまして、現在においても両岸に古い家並みが続き、季節には桜や源氏ボタルの鑑賞ができます。また夜ともなれば川上に目をやり、川筋が山々と交わる位置に国宝五重の塔がポツカリとライトアップされておりまして、その幽玄な姿を見せるなど大内氏の時代にタイムスリップしたかのような錯覚を起こさせるほどの風情を残しているところでございます。私といたしましても住民の皆様の地域固有の伝統文化に対する思いがまちづくりにつながっている具体的な事例として今後の本市のまちづくりの施策にも反映してまいりたいと考えておるところでございます。この席をお借りして宣伝をさせていただきますが、来年も同じ時期に開催をされるという予定でございます。皆様にも、機会がございましたらぜひこのイベントに御参加をしていただきまして当市のもつ魅力を堪能していただきたいと思っております。

次に本市の情報ネットワークの構築について報告をいたします。本市におきましては、平成7年度に策定をいたしました山口市のOA基本計画に基づきまして、庁内のOA化を推進してきておりますが、この度、本庁各所属と出張所、公民館などと出先機関そして市立小中学校と55か所を結んだWAN、いわゆるワイドエリアネットワークと申しますがWANによります行政情報ネットワークの第1次整備を終了いたしまして、先月の1日に開通式を行ったところでございます。このネットワーク構築の特徴の一つといたしましては、充実した環境の整備であろうかと考えております。つまり職員2人に1代の割合で配置しておりますパソコンによりまして電子メールなど職員相互のコミュニケーションを活発化し、情報の共有化が図れるところでございます。しかしながらこれを運用していくにあたりましては職員一人一人の情報化に対する意識醸成を図りますとともに、総合的な情報環境の整備を推進ということが考えられようかと考えております。例えば、私が課長に電話をかける代わりにですね、私の机にあります電子メールで課長に手紙を入れておきます。課長はそれを見て応答をしてくるという仕組みになっておりまして、課長が机に居ろうと居るまいと電子メールで送っておれば、それを見て課長自身あるいは部長自身が

処理をするというシステムにいたしております。電話ですと居らんと通じませんけれどこれは居らなくても電子メールを送っておけば居るときに見てくれるというシステムでございます。

最後になりましたが、平成13年に西暦では2001年でございますが、この21世紀という新しい世紀が始まる年に、山口市の隣の阿知須町におきまして、通商産業省が提唱するジャパンエキスポ制度の認定を受けまして、21世紀未来博覧会が開催される予定でございます。開催期間は約80日の予定でございます、「いのちきらめく未来」をテーマに入場者は200万人を見込んだ県下挙げての最大のイベントになろうかと認識しております。従いましてこの機会を積極的に活用しながら、本市の魅力为全国に情報発信し、また来場者を本市へ数多く誘導することで、本市の経済の活性化のイメージアップを図っていきたくて考えております。このため現在これに向けての庁内組織をたちあげまして、博覧会に対する本市の取り組み方策を検討させているところでございます。つきましては雪舟サミットの構成市町の皆様にも是非この博覧会にお越しいただきたいと思っております。なお、これにあわせ第9回目となると思っておりますが、本市においてお引受けをさせていただくことを考えております。その際は是非皆様お越しいただきますようご案内を申し上げる次第でございます。以上で本市の報告とさせていただきます。ありがとうございました。(拍手)

進行：総社市長 本行節夫

ありがとうございました。芳井町からお話しをいただきますが、町長さんが所用でお帰りになられましたので、渡辺収入役さんから御報告をお願いいたします。

芳井町収入役 渡辺裕昌

おはようございます。総社市さんには昨日は大変お世話になりまして本当にありがとうございました。心から感謝しお礼申し上げます。今司会の総社の市長さんがおっしゃいましたが、町長がどうしても出なくてはならない用事がございまして本日のサミットに欠席することを皆様によろしく伝えてくれと申しておったことをまずもって報告いたしておきます。

芳井町でございますが、サミットの参加市町の皆様にはそれぞれの特徴がございますが芳井町ではそれなら特徴を言えといわれれば特徴がないのが芳井町かなと考えておるところでございます。芳井町の概要でございますが、緑と清流のまち芳井町は岡山県の西部に位置し、町全体の面積の77%が山林というところでございます。そして過疎の町でございます。その高齢化率は31.1%に達しておる現況でございます。昨日町長が申しておりました、「雪舟ものがたり」の冊子を作りました。この雪舟ものがたりにつきまして、私も本をいただいて、一通り目を通しました。その中の本当に判りやすく読みやすく編集ができていると感心したわけでございますが、この雪舟ものがたりをできれば私個人としては小学校等の副読本として使っていただければいいなという感じをもって読んでいたわけではあります。学校現場で考えることはどうかなというふうに懸念いたしておるところでございます。

この雪舟ものがたりにつきまして、文化活動の助成というふうなことが福武文化振興の振興財団これが岡山県にあるわけでございますが、ここに申請いたしましたところ、助成の対象にしてやるというふうな御回答をいただきまして、またこれをやっていくとすれば関係市町長さんに御協力をいただかなくてはならないのかなというふうに考えているところでございます。この助成金1件につきまして、20万円ということでございますが、これのフォーラムを行うときがございまして、その都度また皆様方に御連絡申し上げましたら、どうかご協力のほどよろしくお願いを申しておきます。いろいろ申したいことはございますが、第6回の雪舟サミット以降、芳井町におきまして事業の完成、事業に着手したものを2、3申し上げまして、御報告にさせていただければと考えております。

芳井町は今年度、芳井保育園というのがございまして、31年前に建築いたしました木造平屋の園舎でございましたが、老朽化をいたしまして、運動場、庭園も非常に狭くなりまして、移築増築ということが余儀なくされましたので、今年度の予算をもちまして敷地面積2200㎡ほど購入を致しまして、その中に建築床面積が427㎡ぐらいのものを建築して今年度中に完成させたいなと、総工費につきましてでございますが、用地代等含めまして1億9千2百万円余りというふうになることです。来年の新学期からはその新しい園舎でもって園児を迎えて保育事業に努めたいなというふうに考えております。この園舎につきましては現在ある園舎から約2kmほど南のほうにでた田んぼの中に非常に広々とした見晴らしのいい位置に建築中でございます。環境がいいから園児自体ものびのびと素直に成長してくれるのではなからうかなというふうに考えているところでございます。それから第6回のサミットを終えましてすぐでございますが、芳井町を走っている国道が一本あるんですが、その国道が313号でございますが、これに芳井町内一番交通量の激しい通勤通学のネックになっておりました幅の狭い箇所がございますが、その飯名地区を避けてバイパスができたのでございます。24億円の総費用でございます。供用の延長トンネルを含みまして1460mのバイパスを完成いたしました、それによりまして、大型のトラック等がバイパスを通る関係で、昔の旧道これが通学路、通勤道に代わりまして非常に重宝しているところでございます。これまたバイパスができて非常に便利になったなと喜んでおりましたところ、あまり道路が良くなりすぎまして、交通事故、交通死亡事故がたびたび起こるのには本当に苦慮いたしておるところでございます。

それからもう一件申し上げたいのでございますが、芳井町もどこの市町にも劣らぬような過疎の町でございます。若者の定着ということでございまして、梁瀬地区へ分譲住宅、完成いたしましたら分譲住宅にしたいなという考えをもちまして、面積でございますが約39,000㎡を購入いたし、その中には行政財産も何ほか含まれておりますけれどもそれだけのものを今購入いたしまして、そこが谷でございますので、そこを長らくの間に残土等を捨てまして埋めていきましてそれを出来上がったら分譲住宅にしたいなというふうに考えておるところでございます。そして出来上がりの面積が29,000㎡ぐらいになるわけでございますが、そうすると約60戸の住宅ができるのではなからうかというふう

に考えて今一生懸命に第1期工事、第2期工事を発注してやっているところでございます。

それから、芳井町の概要でございますが、冊子では16ページに載っております。まあ見ていただければありがたいと思っております。それから、県営総合開発事業、改良事業でございますが今年の9月に完成をいたしまして竣工式をしたばかりでございます。事業でございますが明治地区に完成をいたしまして、受益面積が160ha、水源の施設でございますがダムの貯水量でございますが47万 m^3 、ということでございます。それで総工費といたしまして54億円を投じまして、話がでかけましてから20年間くらいかかってから完成というところにこぎつけたわけでございます。いろいろとお話したいことはございますが、時間の制約もあるようでございますので、これで芳井町の一応報告ということとさせていただきます。(拍手)

進行：総社市長 本行節夫

はい、ありがとうございます。

若干時間が押しておりますが私の方から総社市の取り組みにつきまして申し上げたいと思います。

そこに書いておりますのはご覧いただくことといたしまして、人口の伸びでございます。いまのところそこにありますように、56,762。こういうことでありまして、伸び率は県下10市の中でも一番高いということでございます。それから生活していくうえでの地理的条件に加えて、気象条件、自然条件は申し分ない、というふうに思っております。

こそで、最近の新しい顔というふうなことでございましょうか、二、三申し上げてみたいと思いますが、その一つは、岡山自動車道の開通でございます。今年の3月15日に全通いたしました。その中には、日本一の高さを誇ります見延橋というのがございます。76.2mあるわけでございますが、これによりまして東西南北の交通が非常に便利がよくなった。その交流の軸に岡山総社インターというのが置かれておりますが、これらを有効に活かしてがんばっていかねばならん、このように思っております。

その外、総社駅の駅舎の橋上化でございますが、19ページの上に写真がございますように、長年の懸案でございましたこの井原鉄道、井原線が平成10年の暮れには完成をする、11年の1月からは開業をするということもございまして、伯備線でございますが、この駅は、それを総社市の玄関としてふさわしい駅舎とするために、今橋上化の工事が進められております。今朝の新聞によりますと、南高校の生徒の皆さんが工事用の垣、垣根といたしますが、それに絵を描いてくれておるのが記事に載っております。伯備線の駅では最初の工事でございます。

それから二つ目が、吉備路クリーンセンターというのがございます。これは広域でやっております。私ども総社市と吉備郡真備町、そして山手村、清音村、1市1町2村で組合を作っておりますが、日量180tのゴミを処理するための最新のものでやっというところで今年の3月に完成いたしました。5種分別でゴミを収集しております。これから、し尿についても広域でやろうというふうなことで、今準備を進めておるところでござ

ざいます。

それから、総社北公園陸上競技場なり砂川公園でございますが、これは市街地の北の方に、第3種の公認を受けました400mのトラックを備えました陸上競技場、これを完成いたしました。最近はかなりの利用をしております、県内の大会等に使用されております。また、テニスコートや親水公園も併設しております、仕事帰りに汗を流したり、憩いの場所として、親しまれております。それから砂川公園というのがありますが、これはキャンプ場といたしまして夏は特に子供たちに親しまれ、賑やかに利用していただいております。市内外の方が多く訪れておられます。そこに書いてあります外のことを申し上げまして、記事に載っておりますのは、ひとつご覧いただきたいと思っております。その他のことといたしまして、昨日の話と重複いたしますが、「雪舟の里総社 墨彩画公募展」というのを第2回目をやろうということで今進めております。昨日シンポジウムをお聞きいただいた通りでございます、是非皆さんのところから応募していただければ、このように思っております。もう一つは雪舟生誕地公園でございます、これは先ほど言いましたインターチェンジの南側の赤浜というところでございますが、用地を確保いたしました。駐車場や公園を作りたいということでございまして、雪舟が描いた山水の世界をイメージし、まわりの景色と調和を図った設計としていきたい、このように思っております。早期完成を目指しまして努力をしていこうということでございます。なお、皆様のお手元にもお届けしていると思っておりますが、雪舟さんのテレホンカードを作成いたしました。地道なPR活動として、あるいは記念品として用いております。雪舟の生誕地でございますので、いろんなことに関連をいたしまして、それを売り出していこうと、こういうふうにも思っておりますが、特に、芳井町の雪舟を語る会の皆さんによりまして、雪舟さんの赤浜生誕説をより確証付ける文書を発見いただきましてありがとうございます。大いにこれからもがんばっていききたい、このように思っております。以上、非常に簡単に端折って申し上げましたけれども、私どものところの様子でございます。ありがとうございました。(拍手)

進行：総社市長 本行節夫

若干時間を押しております。

以上、各市町から御報告をいただきましたが、何かこの際御質問等がありますればお願いを申し上げたい、このように思います。何かありますか。

特にないようでありますのでそれでは、これで各市町のまちづくりについての御報告と情報交換を終わりといたしまして、次に「新規提案等について」これに移らせていただきたいと思います。皆さん方のところで、何かこうしたらというふうな御提案等がありましたらお願いを申し上げます。

特にございませんようですので、先に開催をいたしました事務担当者会での協議内容を踏まえた事務局の方から発案がございますので、私の方から申してみたいと思います。

何点かございますが、まず一つの提案といたしまして、それぞれの市や町が開催するイ

ベントで、広域での参加が可能なもの、又は適当なものにつきましては、互いのまちの住民の参加を積極的に求めることにいたしまして、そのための情報提供を行うこと。それから、受け入れる側は、手続きの取りまとめなどの補助を行うなどいたしまして、温かく迎え入れることに一層心掛けていくということはいかがでしょうか。

特に、私どものところで来年早々あるんでありますが、例えば、本市の場合で言いますというと、毎年2月に山陽新聞社との共催によりまして吉備路マラソンを実施しております。来年はちょうど5回目を迎えます。今まで4千人くらいでございましょうか、お出でになっておりましたが、来年の第5回目は5千人くらいになるのではないかと、このように思っております。これへの参加者につきまして、何らかの配慮を行いたいと思っております。6つの自治体の住民の方々が一同に会して交流というのは、なかなか難しゅうございますので、こういった形から交流を進めていくのが良いかと思っております。いまひとつ申し上げましたのは第5回の、たしか来年の2月22日だと思っておりますが、第5回の吉備路マラソンに御参加をいただくというふうなことを、お呼びかけをしていったらどうか、こういうことではございますが、いかがでしょうか。御意見があればお願いを申し上げたい、このように思います。

はい、御賛成のようではございますので、御案内をまた改めて差し上げます。ぞうど、ひとつ御参加をいただければと思います。その際に雪舟の生誕地のところも通りますので、何か旗印でもしてご覧いただければと、こんなことを思っております。

次に、2点目について申し上げます。互いの自治体が今後も交流を深めていくためには各市町を住民に親しいものとしていかななくてはならないと思います。そのためには、情報交換を密にいたしまして、住民の方にお知らせすることが大切であろうと思います。その手段といたしましては、広報紙の掲載やら、パンフレットの作成など考えられますが、色々な問題もあると考えますので、詳細は担当者会議への宿題としていろいろと、こう協議を願って煮詰めていくということにいたしましたらどうであろうかなあ。そういう方向で検討していくことを、この場で申し合わせをしていただければありがたい、このように思うわけです。今までは各市町単独での取り組みが主でございましたが、やはりサミット構成市町が共同で事業をしていくということも大切であると思います。どうぞ、そういう意味で、そういう方向で進めさせていただきたいと思っております。

最後にもう一つ確認の意味で御提案をいたしますが、前回のサミットで山口市さんから御提案いただきまして、その後の調整もお世話になりました、本年の4月に協定を結びました「雪舟サミット構成市町の災害相互応援協定」でございまして、本年6月には山口県の北部で地震が発生しました。また7月には台風9号によります大雨で、益田市さん等が相当の被害を受けられました。状況のお尋ね等心配した経過もございまして、実際にどこかの町で災害が起きたときに、その状況を取りまとめて他の市町へ報告を行ったり連絡をしたり、対応についての調整を行うその幹事を、あらかじめ決めておくということがいいのではないかと、こんなことを思っておりますがいかがでございましょうか。幹事

役を決めておいて、そこで調整をしていく。こういうことですが、いかがでしょうか。

それでは、僭越でございますが、3市3町の位置的なこと等も考え合わせまして、山口市さんに幹事をお願い出来ればな、このように思っておるところでございますが、いかがでしょうか。

(山口市長さんから了承の言葉あり)

じゃあ山口市さん一つよろしくお願いします。

(山口市に災害が起きた場合のお尋ねあり)

はい、それで副がでございます。副幹事といいましょうか、それはできれば私どものところでお引き受けをしてもいいかなと思っております。いかがでしょうか。

(了承を得て)

それでは、これらにつきまして幹事を山口市さん、副幹事を総社市に決定させていただきまして、まあそのようなことがないことを祈るわけですが、備えあれば憂いなしということでもありますので、そのようにさせていただきたいと思えます。

以上で、新規提案について、私どもの事務局の方からの提案・協議を終わらせていただきますが、何かこの際皆さん方のところでありましたらお願いをいたします。

別にないようでございますので、次に、次期の雪舟サミットの開催地についてでございます。お引き受けを希望されるところがございましたら、まずお願いを申し上げたいと思えます。

(益田市長さんから「従来の順番で」との言葉あり)

今、益田市の市長さんから従来の順番でということで、益田市さんということでございますがいかがでしょうか。

(了承)

それでは、隔年ということでございます。どうぞよろしく願いいたします。では、第8回雪舟サミットは益田市さんにお世話になるということでよろしく願いを申し上げます。

時間も経過してまいりました。ここで雪舟サミット構成市町の今後ますますの交流が深まりますように、そして本日の会議で決定した事項等を実現していくために、サミット宣言を行いたいと思えます。しばらくお待ちを願います。

(サミット宣言配布)

それではお手元にお配りしました宣言文の案を、私が朗読をいたします。

「サミット宣言。私どもは雪舟をきずなとし、共に発展を目指し、魅力あるまちづくりを進めてまいりました。そして、それぞれの自治体において「雪舟」の名が輝きはじめ、真剣な地域づくりへの取り組みによって、新しい歴史文化が育つつつあります。今ここに雪舟サミットは2巡目を迎え、今まで以上に互いが手を携え、相互の連携を深めるとともに住民間の交流促進と共同の事業を展開していくことが大切であると確認しました。そこで

次のことを当面の課題として掲げ、その実現に向けて取り組んでいくこととします。

1 互いの自治体が、より身近に感じられるよう情報の交換に努め、適時まちの姿を紹介し合うこと。

2 広域参加が可能な事業については、相互の住民や団体が参加しやすいように配慮するとともに、温かい受け入れを行うこと。

3 相互に効果の期待できる共同事業について検討し、その実施に努めること。

以上、私たちは今後も末永い交流と友情の輪を大切に、互いを思いやり、雪舟から広がる未来を創造していくことを約し、ここに宣言します。平成9年11月5日 第7回雪舟サミット参加自治体交流会議」

以上でございますが、いかがでございますでしょうか。

(拍手)

ありがとうございました。

皆様の拍手をもちまして、この宣言を採択することに決定いたしました。ありがとうございました。

司会(陶山総務部長)

皆さん、長時間の御審議をどうもありがとうございました。次期第8回の開催地が先ほど益田市さんに決まりましたので、ここで総社市から益田市へサミット旗をお渡ししたいと思います。益田市長さん、総社市長さん、前の方でひとつお渡しをいただきたいと思えます。

(サミット旗 引き継ぎ)

皆さん、拍手をお願いいたします。(拍手)

それでは、益田市長さんから、次期開催地ということで一言ご挨拶いただきたいと思えます。

益田市長 田中八洲男

ただいまサミット旗を引き継ぎまして、今回は明後年になりますけれど、益田市でサミット会議を開催させていただきます。昨日、今日と総社市さんが非常に手厚い歓迎をいただき、立派な会議が開催できました。何とかこれに負けないように努力をしてみるつもりではございますが、各市・各町の皆様の御参加を期待しております。よろしく願いいたします。

司会(陶山総務部長)

ありがとうございました。各市町長さんには御熱心に御報告や御協議をいただきましてありがとうございました。また、会場の皆様には長時間お付き合いいただきまして厚くお礼を申し上げます。以上を持ちまして、サミット会議を終わらせていただきます。

それでは、この後も御視察の日程が残っておりますが、ここで今回第7回雪舟サミットを一応の閉会とさせていただきます。

閉会にあたりましては宮原総社市収入役がごあいさつを申し上げます。

総社市収入役 宮原章泰

サミットの閉会にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。昨日今日と2日間に渡りまして開催いたしました、第7回の雪舟サミットの諸行事が、御出席をいただきました皆様方の大変な御協力によりまして、所期の目的を達成し、無事に全日程を終わることができました。開催市といたしまして、ここに改め感謝を申し上げ、心から厚く御礼を申し上げます。大変ありがとうございました。サミット会議では熱心に貴重な情報交換や御審議をいただき、そして、先ほどは雪舟さんをきずなとして未永い交流と友情の輪をさらに広げ未来を創造していこうというサミット宣言が行われました。次回は益田市に会場をお引き受けいただくことが決定されております。また、皆さん方にお会いできることを今から楽しみにしております。なお今回のサミットにあたりましては、会場が東西に分散するなど、大変皆様方に御迷惑をお掛けいたしました。どうぞおゆるしをいただきたいと存じます。これから記念撮影の後、市内の御視察をいただきますが、ここでお帰りになる方もいらっしゃるようでございます。どうか遠い道のりでございますが、安全にお帰りをいただきますように心からお祈りを申し上げます。最後にありましたが、3市3町が今後さらに益々発展をいたしますように、そして御参会をいただきました皆様方の御健勝とそれぞれの地域での御活躍を心から祈念いたしまして、閉会のごあいさつにさせていただきます。大変ありがとうございました。